

2017年12月10日(日)／説教者:神谷武宏

説教:「神にできないことは何一つない」

～保育園・米軍落下事故を受けて～

聖書:ルカによる福音書1:26～38

先日、7日(木)午前10時20分ごろ、保育園1歳児部屋のトタン屋根からドーン、ドーン、ゴロゴロという激しい音に”わあー”と叫ぶ子どもたち。園庭落下まで50センチしかなく、あわや大惨事手前で屋根の上で止まる。園庭には30名ほどの園児が遊んでいたのである。まずは園児、先生方に怪我がなくほっとした。

翌日米軍は、落下物は米軍の物であることは認めたが、飛行する米軍ヘリから落下した可能性は低いと言って来た。この発言には本当に憤りを禁じ得ない。わずか50センチずれていたら奪われていたかもしれない命に寄り添えない状況に、怒りを乗り越えて悲しくなる。

マリアへの受胎告知。マリアはナザレのガリラヤに生きる女性。ナザレとは、非常に貧しく人口100名ほどの小さな村だった。ヨハネ福音書にこんな言葉がある。「ナザレから何か良いものが出るだろうか」。この言葉は差別されたナザレを表している。貧しいがゆえに、良いものが出るはずもないとしている。

神はナザレに住む女性のもとに天使を送る。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」この神の御計画は、この世の常識とは真逆にある。この世は豊かな地域、力ある国、最新兵器の軍備、最強の軍事基地を持つ国が恵まれた国であり、国家、国民であると思うのだろう。しかし聖書は、そのようなところに「おめでとう」とはならない。「恵まれた方」とは言わない。

マリアは「戸惑い、恐れた」とある。何に「恐れた」のか？目の前に現れた天使か？マリアは天使に恐れたのではない。天使の「言葉に戸惑い」恐れたのである。この言葉とは、「主があなたと共に居られる」ということ。この世の常識では、主と共に居られるのは、神殿詣でを欠かさず生け贄の奉げものを惜しみなく奉げ、律法を忠実に守っている人、そのような人こそ、“主と共に居られる”者にふさわしいと考えられていた。貧しいナザレに住む者に“主と共に居られる”ことなど有り得ない。マリアの戸惑い、恐れにはそういう意味がある。

この度の一連の事故を受けて、父母会が立ち上がった。また、この事故を知って、居ても経ってもいられない30年前の卒園生が駆け付けてくださった。その他にも、40年前の卒園生で県議になっておられる方が、駆け付けてくださった。仲間が次々に、共に乗り越えて行こうとする仲間が与えられている。

そして私たちは「主が共におられる」ことを知っている。そのことを信じて、この度の一連の事故に向き合い乗り越えて行こう。「神にできないことは何一つない」のである。(神谷)